

彫刻：安定した姿

兼原啓二*

Sculpture: Stable Appearance

Keiji KANEHARA



「安定した姿」 兼原 啓二

第85回自由美術展（2021年） 会員出品 国立新美術館
H24cm×W32cm×D27cm 楠・火・水性塗料・砥の粉

下部は、丸く反らせ厚みを残しているの重くなっている。そのために、起き上がり小法師のようにユラユラと揺れて静止する。揺れること自体は不安定なものであるが、いつかは静止する。その静止したところは、この作品にとって一番安定した状態なのである。作者が止ませようとしたころではなく、この作品が意志を持って止まっているのである。作者は形を作っているが、止まった時点のことを考慮せずに作品の意思に任せている。作品は“心”を持ち「この姿を見てくれ」と、叫ぶように途中から作者の手を離れていつている。

